

調査番号

63

事業名	環境教育推進費	財務コード (事業)	433206
-----	---------	---------------	--------

細事業名	企画展示事業費
------	---------

担当部課室	森林環境 部 森林環境総務 課 企画 担当 (内線)	6076
-------	----------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)
事業の目的	誰(何)を対象に 一般県民
	その対象をどのような状態にして 美しい自然や環境を守っていくことの 大切さを理解している
	結果、何に結びつけるのか 環境に配慮した日常生活の実践
事業の内容 主に 24年度	映像・写真・絵画・音楽等により、普段触れるのこのないものや異なった視点から環境を見ることによって、自然の美しさや環境の大切さを伝えるとともに、自然や環境を意識した生活へと転換する契機とするため、写真等の企画展示及び環境作品上映会を実施する。 (1)自然写真等の企画展示の開催 ・研究所スタッフ・専門家・愛好家などの写真やパネルを展示する ・展示物は、動物生態研究会・日本野鳥の会等県内諸団体の協力を得る ・H24活動実績:(開催回数)全5期 (参加者数)12,888人 ・H25実施予定(全6期):「春の山野草を紹介した写真展」「やまなしの動物や昆虫を紹介した写真展」 「きのこと森の関係を紹介した写真展」「剣丸尾の自然を紹介した写真展」「火山としての富士山を取り上げた写真展」 「身近な写真を公募したある日の風景写真展」 (2)環境作品上映会の開催 ・映像を通して地球環境への理解を深め、地球と人類の望ましい関係を見つめていくことを目的とした上映会を開催する ・H24活動実績:(開催回数)6日間 (参加者数)106人 ・H25実施予定:5/19, 7/28, 9/8, 12/1, 1/12, 2/16(6日間)
根拠法令等	

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 来館者数 企画展示 上映会	12,616人 376人 計12,992人	13,000人 300人 計13,300人	12,888人 106人 計12,994人	13,000人 80人 計13,080人	13,000人 300人 計13,300人	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考にした、H26.4に研究所を改編し、富士山科学研究所(仮称)として整備する予定。 データの出典等 環境科学研究所の年間計画
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		97.7 %			
成果指標 成果指標達成率 (実績値/目標値)						成果指標 目標設定の考え方 データの出典等
			%			
決算額、予算額 (千円) うち一財額	280 280		166 166	280 280	283 283	成果指標によらない成果 アンケート結果では、「(キツツキの森が)なくなってしまった写真について)身近な自然環境の写真なのでショックを受けた」、「今後は自宅の庭の草花をもっと興味を持ってみたいと思う」、「地球の温暖化の現実を多少でも知り、今後の生活に役立てていきたい」等の意見が多く寄せられている。
所要時間(直接分)	896 時間		896 時間	896 時間	896 時間	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	896 時間		896 時間	896 時間	896 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	1,837		1,837	1,837	1,837	

これまでの事業の見直し・改善状況

企画展示については、展示場所の研究所のエントランスホールが間接照明のため暗く見づらいが多かったため、H24に照明を交換し、展示環境を改善した。環境作品上映会は、H23年度までアース・ビジョン組織委員会との共催事業であったが、H24から研究所単独事業とし、開催時期についても見直しを行い、通年開催とした。

## 活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度活動指標達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記入すること
H24年度成果指標達成率			
	b		来場者へのアンケート結果では、「(キツツキの森がなくなってしまった写真について)身近な自然環境の写真なのでショックを受けた」、「今後は自宅の庭の草花をもっと興味を持ってみられると思う」、「地球の温暖化の現実を多少でも知り、今後の生活に役立てていきたい」等の意見が多く寄せられており、自然の美しさや環境の大切さを伝えるとともに、自然や環境を意識した生活へと転換する契機とする、という本企画展示の目的に鑑み、意図した成果をほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

## 見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

### 一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	富士山の世界文化遺産登録に伴い、環境科学研究所を改編し、富士山科学研究所(仮称)へ整備する計画が検討されており、従来の環境教育推進事業についても見直しが行われる予定である。企画展示事業についても、現在の内容を見直し、今後更なる高まりが予想される富士山学習へのニーズに対応した展示・上映作品をより一層取り入れていく必要がある。	b・d

・「以外の判断項目」の欄  
 必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

### 二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
/	/	/

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

## 見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	企画内容は、従来から富士山を取り巻く自然の美しさを伝えるものであったため、基本的には継続するが、来館者の富士山や周辺地域の環境に関する理解の深化に役立つよう、作品内容に関するより詳しい説明文を掲載するとともに、更にその説明文を元にした配布資料(持ち帰って自習可能な内容)を設置する等の見直しを行う。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。